

お詫びと訂正

このたびは「再確認&再発見 栄養素の働きハンドブック」をご購入いただき、誠にありがとうございます。本書におきまして、下記の箇所に誤りがございました。読者の皆様ならびに関係各位にご迷惑をおかけしたことを謹んでお詫び申し上げますとともに、以下のとおり訂正いたします。

2019年9月
一般社団法人日本摂食障害協会

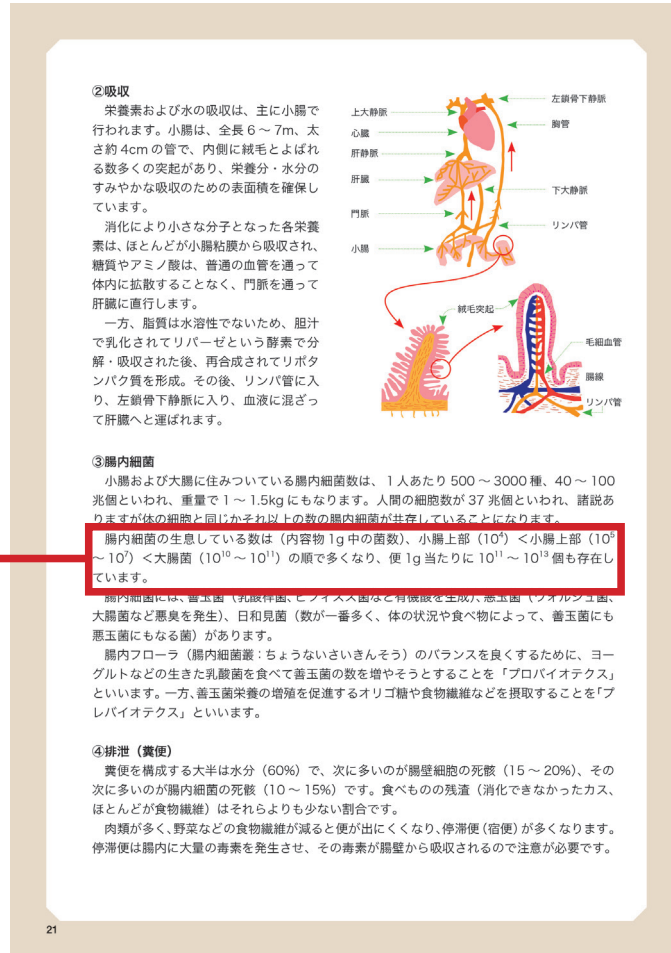
【訂正箇所】	誤	正
P.12 表 脂溶性ビタミン 名称 3段目	ビタミンD	ビタミンE



正)

ビタミンE	α-トコフェロール β-トコフェロール γ-トコフェロール δ-トコフェロール	細胞膜の酸化防止・安定化、体内抗酸化作用、老化防止、赤血球の溶血予防作用	レバー、牛肉、豚肉、卵、魚(かつお、さけなど)、玄米、とうもろこし油、ひまわり油、マヨネーズ	不妊症、習慣性流産、しもやけ、皮膚の硬化、しみ、指のしびれ、感染症
--------------	--	--------------------------------------	--	-----------------------------------

【訂正箇所】	誤	正
P.21 ③腸内細菌 本文 4～5行目	小腸上部 (10^4) < 小腸下部 ($10^5 \sim 10^7$) < 大腸菌 ($10^{10} \sim 10^{11}$)	小腸上部 (10^4) < 小腸下部 ($10^5 \sim 10^7$) < 大腸 ($10^{10} \sim 10^{11}$)



正)

腸内細菌の生息している数は（内容物1g中の菌数）、小腸上部 (10^4) < 小腸下部 ($10^5 \sim 10^7$) < 大腸 ($10^{10} \sim 10^{11}$) の順で多くなり、便1g当たりに $10^{11} \sim 10^{13}$ 個も存在しています。